

高岡ロータリークラブ

会長／山本 毅 幹事／塩崎 吉康



2022/6/9

No.39

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

例会日：木曜日 12:30～13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.6

司会 竹田 会場監督 点鐘 山本 会長

点鐘

国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト

会長挨拶

◇誕生祝

田中 哲さん (6/9・66才)

吉岡 周さん (6/13・70才)

折井 宏司さん (6/14・52才)

千田 祐司さん (6/15・53才)



幹事報告

◇配布⇒卓上にロータリーの友 6月号

◇2・5番テーブルミーティング

⇒本日 18:00～ 真ゆき

委員会報告

◇ロータリーの友 6月号紹介 (大谷会員)

< ニコニコBOX8件 22,000円 >

山本 (毅) 会長／吉井会員に「カーボン・ゼロへの取り組み」との演題で、卓話をお願いしています。私自身は、地球温暖化、SDGs、カーボンニュートラルなどに疑いを持っていますが、今日は、吉井会員の銀行マンとしての幅広い見識に元づく卓話を聞いて勉強したいと思います。

藤田筆頭理事／先日の北日本新聞に当社製作のサザエさん像の件で新聞に掲載いただき有難うございます。又、山本年度も3回の例会残すのみとなりました。御支援いただきました皆様に感謝申し上げます。

北野君／先月末、次女が瑞龍寺さんで挙式をあげました。四津谷住職ありがとうございました。その後、ニューオータニフォーシーズンでフレンチ会食。県外のお客さんにも大好評でした。竹田社長ありがとうございました。

四津谷君／先日ガンダムの仮装をしましたが、今ガンダムが見直されています。昨年から2本映画が公開されましたがファーストガンダムでは「オデッサ」が出てきます。MSのドムのトリプルアタック！！黒い三連星が出てくる話です。ウクライナの人にしてみればロシアがシオン軍にうつるでしょう。日本にガンダムがあればウクライナに出したのでしょうか。不謹慎ですみません。

田中君／誕生祝ありがとうございます。

吉岡君／本日は誕生祝を頂きまして有難うございます。

今後も「高岡ロータリークラブ」に出席して頑張りますので、宜しくお願い致します。

千田君／誕生祝ありがとうございます。

勝山君／本日、早退させていただきます。

プログラム

会員卓話

『カーボンニュートラルへの取り組み』

吉井 治 氏

今回の私の話は大きくわけて4つの内容としております。一つ目はカーボンニュートラルに関する国内外の動き、二つ目は国内企業の動き、三つめは地域企業、中小企業にとっての脱炭素経営とはなにか、最後に北陸銀行グループの環境戦略についてです。

近年、国内でも気候変動が原因と思われる集中豪雨や台風による風水害が激増していることは、ご承知の通りです。平成30年7月の西日本豪雨や令和元年10月の台風19号による箱根町での集中豪雨では大きな被害が発生しました。国外の動きですが、2015年のパリ協定「COP21」ではすべての国が参加する合意として、1850年から1900年の工業化前に比べ、気温を1.5%上昇に抑えるという努力目標と今世紀後半に温室効果ガスの排出量と吸収量の均衡を達成するという話し合いが行われ、2021年の「COP26」でそれらが文書化され国際ルールとなりました。

国内では2020年に総理が「2050年カーボンニュートラル」を宣言、翌年には「2030年度に13年度比46%減、さらに50%の高みに向けて挑戦」と表明しています。そして、2050年度までに排出量実質ゼロを目標にしました。全国の市町村で「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」の表明が行われていて、富山県では富山市、魚津市、南砺市、小矢部市、立山町が表明しています。高岡市は表明していませんが、市内には製造業が多くそ

れに配慮しているのかと思われます。

さて、こうした動きが今後、地域企業・中小企業にどんな影響が及ぼすか？ですが、一つにはグローバルなESGの流れの中で、グリーンとされるものへの取引上の資金の流れ、金融資金の流れが加速し、グリーンではないものからの転換圧力が強まるのではないかと思います。また、金融等の動きに連動して大企業がサプライチェーン全体にグリーンな行動を求めるようになり、それがサプライチェーン全体に影響を及ぼすものと思われます。具体的には、脱炭素の動きが加速化しており、グローバル企業がサプライチェーンの排出量の目標を設定すると、そのサプライヤーも巻き込まれるという状況が始まっています。一例をいいますと、SBTが認定した企業が22年3月末で147社あります。SBTとは「サイエンス ベースド ターゲッツ」の略で、温室効果ガスの排出削減を科学的根拠に基づいて目標設定することで、それが認められれば公的に認定されるということです。認定企業のうち大和ハウス工業は2025年度までに購入先サプライヤー90%にSBT目標を設定させるとしていますし、住友化学、第一三共、大日本印刷、イオンなども同様の目標をサプライヤーに課しております。

次に「地域企業、中小企業にとって脱炭素経営とは何か？」ですが、「気候変動対策の視点を織り込んだ企業経営」のことだと思います。気候変動対策を企業のCSR活動の一環としてではなく、企業にとって経営上の大きな課題として、全社をあげて取り組む企業が増えています。そのためコスト増の面より、リスク低減と成長のチャンス、いわば未来への投資という面が注目されています。

地域企業、中小企業が脱炭素経営に取り組むメリットの一番は、「優位性の構築」です。取引先からの脱炭素の要請に対応できれば、売上や受注機会の維持または拡大につながります。二番目は、エネルギー消費の効率化や再生エネルギーの活用等により、光熱費や燃料費を削減できることです。三番目は、知名度や認知度の向上です。いち早く脱炭素経営に取り組むことで、先進的な企業としてメディアへの露出や国・自治体からの表彰を受ける機会が増え、知名度や認知度が向上します。四番目は、社員のモチベーション向上や人材獲得力の強化です。気候変動問題に取り組む姿勢を示すことで、社員の共感や信頼を獲得し、社員のモチベーション向上につながります。若い世代は環境や社会課題への取り組みを会社選びの新基準にしていることから「この会社で働きたい」という意欲を持った人材を集める効果が期待されます。五番目は、好条件で資金調達ができる機会を得られることです。金融機関が気候変動への取り組み状況を融資の判断基準の一つとする傾向が強まっており、低利融資での調達や再エネ導入等に対象を限定した融資メニューの活用が増えています。

では脱炭素経営とは具体的に何をするのか？ですが、「自社の排出量を把握し、開示する。そして削減方法を特定し対策を実施する」という少々困難を伴うチャレ

ンジをすることにつきると考えます。

最後に我々ほくほくフィナンシャルグループの環境戦略についてお話しさせていただきます。地域金融機関は、幅広い地域企業に対面チャネルを有する企業の一つです。つまりESGやSDGsこそ、地域金融機関の強みを発揮できるカテゴリーではないかと思っています。そのためには外部環境の変化をポジティブにとらえ、「地域」「取引先企業」「当行」の三方よしの取り組みを推進することが重要で、当行では環境分野に注力し、脱炭素、カーボンニュートラルへの支援を行っていきたいと考えています。今日は素人ながらカーボンニュートラルに関する取り組みについて、紹介させていただきました。ご清聴ありがとうございました。